

自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

研究分担者:岩橋恒太(特定非営利活動法人 akta 理事長)

研究協力者:金子典代(名古屋市立大学看護学研究科)

高野操、岡慎一、林田庸総(国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)

本間隆之(山梨県立大学看護学部)

健山正男、宮城京子、金崎慶大(琉球大学医学部)

荒木順子、木南拓也、藤原孝大、Diego Tavares Vasques、小山輝道、鈴木敦大(特定非営利活動法人 akta/community center akta)

浅沼智也(カラフル@はーと/community center akta)

生島嗣、佐藤郁夫、福原寿弥(特定非営利活動法人ふれいす東京)

玉城祐貴、赤嶺友紀、兼城将(nankr 沖縄 / コミュニティセンターmabui)

中山保世、小日向弘雄(東新宿こころのクリニック)

今村顕史(がん・感染症センター 都立駒込病院)

根岸潤(東京都福祉保健局)

城所敏英(東京都南新宿検査・相談室)

高久道子(岐阜保健大学看護学部)

市川誠一(金城学院大学消費生活科学研究所)

研究要旨

我が国の HIV 新規感染報告者数の 7 割は男性同性間の性的接触による感染であり、ゲイ・バイセクシュアル男性は HIV 感染の早期発見のための検査受検勧奨の重要なターゲット層となっている。UNAIDS(国連エイズ合同計画)は以下の 3 つを達成できれば、2030 年にはエイズは公衆衛生上の脅威ではなくなることを示し、90-90-90 戦略として打ち出している。その 3 つとはすなわち、①HIV 感染者のうち 90%が診断されていること、②診断された感染者のうち 90%が治療を受けていること、③治療を受けているもののうちウイルス量が抑制されている患者数が 90%であることである。日本では、②、③はほぼ到達できていることが先行研究等により示されているが、我が国の男性と性行為を行う男性(Men who have sex with men:MSM)では感染者の 90%が感染ステータスを把握する状況には未到達である。今後のわが国での新規 HIV 感染者とエイズ患者の報告を減少させるためには、従来の公的機関や医療機関にて提供される検査以外の手法も検討し、MSM の検査機会を拡大させる必要がある。

本研究では、コミュニティセンターや MSM をサポートする NGO、そして医療機関とが連携し、検査キットを活用したハイリスク MSM 層の受検推進とこのコミュニティベースの DBS 法を用い

た HIV 検査の事業化に向けた検討を図る。また本検査手法を用いて、受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。

なお、本研究の前身となる取り組みが平成 26 年度から平成 28 年度にかけて国際医療研究開発費疾病研究分野「UNAIDS が掲げる臨床評価指標 90-90-90 達成のための男性同性愛者に対する新しい HIV 検査システムの構築に関する研究(研究代表者:岡慎一)」として実施された。平成 27 年 8 月から平成 28 年 12 月までに 1,702 件の検査キットを配布し、1,403 件(陽性 34 件)の回収実績を得ている。本研究はこの先行研究をもとに、HIV 検査の hard to reach 層を指定し、更に検査キットの配布場所と配布対象者を拡大する。新宿地域での配布に加え、沖縄など他地域の地方のコミュニティセンターでの配布の試行、さらにハッテン場(性行為を目的とした MSM の出会いの場)等での出張配布、英語であれば説明文章の理解とコミュニケーションをとることが可能な外国籍 MSM を対象者に加え、拡大する。また、研究参加者の検査結果と自記式質問紙調査データを研究 ID により連結させた血清行動疫学調査を実施する。

A. 研究目的

コミュニティセンターや MSM をサポートする NGO、そして医療機関とが連携し、検査キットを活用した HIV 検査を MSM に提供し、MSM の有病割合を明らかにする。また受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施し、本研究が MSM の HIV 検査促進に寄与したかどうかを評価するとともに、陽性者の検査行動、リスク行動の特性を明らかにする。

B. 研究方法

指先の血液を絞り出し、ろ紙に垂らす。乾燥させたろ紙血を国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター(ACC)へ郵便で送付する。ACC ラボで HIV 一次スクリーニング検査を実施する。一次スクリーニング検査で陽性または判定保留となった検体は、国立国際医療研究センター中央検査部にて二次スクリーニング検査を実施し、両者の結果をもとに総合判定を行う。研究参加者は本研究のホームページにて検査結果照会画面にアクセスし、検査キットに付された研究 ID およびパスワードを用いてログイン後、自身の検査結果を確認する。スクリーニング検査で判定保留または陽性となった研究参加者に対して

は、「確認検査が必要です」と結果を表示し、本研究の協力医療機関へ受診するよう促す(結果画面から協力医療機関の受診予約が可能)。研究参加の同意取得は無記名で行い、DBS によるスクリーニング検査の結果参照まで無料・匿名で実施する。確認検査のために医療機関を受診した時点から一般診療(非匿名、有料)として扱う。

研究の主要評価項目

(1) HIV 検査キットを利用した MSM の HIV 感染症 有病割合

研究の副次的評価項目

- (1) 検査キット配布地域、配布場所別の HIV 感染症有病割合
- (2) 検査キット利用者のうち、過去 1 年以上 HIV 検査を受けていない MSM の割合
- (3) 検査キット利用者のうち、生涯に HIV 検査を受けたことがない MSM の割合
- (4) 検査キット配布地域、配布場所別受検者の検査行動、リスク行動
- (5) HIV 感染が判明した MSM の検査行動、リスク行動の特性

対象

以下の条件を全て満たすものを本研究の対象者とする。

- (1) 20 歳以上で、男性と性行為経験のある男性 (MSM)
- (2) 日本語または英語を理解できる者
- (3) 研究説明同意文書を読み、研究参加の意思を示した者

研究期間

倫理委員会承認後(2018年2月)～2020年3月

東京都内の保健所および公的 HIV 検査所で実施されている HIV 検査件数は年間約 20,000 件であり、そのうち MSM の受検者の割合は「エイズ予防のための戦略研究」の結果から 6.6%～12.4%と考えられる。仮に MSM 受検者の割合を 10%と推定した場合、都内の保健所等で HIV 検査を受ける MSM は年間約 2,000 件である。

本研究では、保健所および公的 HIV 検査所における年間 MSM 受検者数の約半数に相当する MSM(年間 1,500 件)に対して、本研究の検査を提供することを目標として実施する。

研究ホームページ「HIVcheck.jp」の構築

本研究は不特定多数の MSM を対象とするため、本研究に係るホームページを開設し、研究内容の周知を図る。本研究の概要、検査の流れ、検査キット受け取り方法、結果の受け取り方、検査に関する Q&A、その他支援情報等を掲載する。ホームページはスマートフォン、パソコン対応とする。サイトには下記情報を含むものとする。

- ①研究の概要(対象、研究期間、研究組織、問い合わせ先)
- ②本研究での検査キットを活用した検査の流れ
- ③検体採取の方法(動画を含む)

④HIV 検査に関する Q&A(ウィンドウピリオド、結果の解釈など)

⑤HIV 感染症に関する Q&A(早期検査の意義、陽性判明後の治療や生活など)

⑥支援情報(利用可能な電話相談、HIV 検査情報、HIV の基礎情報や陽性後判明後の治療や生活について情報提供している Web サイトの紹介)

⑦具体的な研究参加の手順と検査キット受け取りの流れ

- 参加基準に合致するかの確認
- 研究参加への同意
- 質問紙調査への協力をお願い
- 質問紙調査の結果と血液検査の結果を連結することについての同意
- 検査キットの配布
- 相談員による対面相談の提供
- 本研究に関する問い合わせ先

⑧スクリーニング検査結果照会画面

各検査キットに封入された検査カードには、検査キット固有の研究 ID と検査結果閲覧に必要なパスワードが記載されている。検査結果照会画面にこの研究 ID とパスワードを入力し、検査結果を参照できる。検査結果の表示には以下の内容が含まれる。

- 結果の解釈に関する情報
- 結果に関する問い合わせ先
- 相談窓口

⑨確認検査受診申し込み

スクリーニング検査の結果が陽性判定または判定保留となった場合は、確認検査が必要なため、結果画面に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を明示する。受検者は同 Web サイトより、受診を希望する医療機関(国立国際医療研究センター エイズ治

療・研究開発センター、東新宿こころのクリニック、都立駒込病院、琉球大学病院、東京都南新宿検査・相談室)と日時を選択する。予約確定後、当該医療機関宛の情報提供書が発行される。

ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報

MSMを対象にHIVの予防啓発を行っているNGOと連携し、検査キット配布地域のゲイコミュニティに対して、本研究で実施するHIV検査の内容や研究ホームページ、検査キットの配布場所を広報する。

具体的には、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした出会い系ソーシャルネットワークサイトにおいてバナー広告を設置し、研究ホームページにリンクする。また、ゲイバーやクラブイベントにおけるチラシの配布、ゲイショップにおける折り込みチラシ、ハッテン場におけるチラシの設置など、本研究の広報を段階的に拡大する。

検査キットの配布と自記式質問紙調査の実施

研究参加希望者は、新宿やその他の地域に設置されたコミュニティセンターakta(厚生労働省の事業費で設置されているMSMのHIV予防啓発拠点)、またはゲイ向け商業施設内に設置する出張ブースに来場する。訓練を受けたコミュニティセンターのスタッフが、研究参加者の適格基準を確認する。本検査は研究として実施している検査である事、血液の採取方法、結果の受け取り方、陽性となった場合の医療機関への受診の流れ、問い合わせ先等、説明文書に沿って説明し、研究参加について同意を得る。同意を得た研究参加者に対してHIV検査キットを配布する。また同時に、自記式質問紙調査への回答協力を依頼する。自記式質問紙調査は無記名で行うが、検

査結果との連結に同意した参加者の質問紙には、検査キットに付された研究IDラベルを貼付する。

血液の採取と検査申込み

研究参加者は検査キットを自宅などに持ち帰り、検査キットに同封された検体採取の説明書を参考にして、ランセットを用いて自身の指先を穿刺し、ろ紙に血液をしみこませる。検体(血液をしみこませたろ紙)、使用済ランセットを返送用封筒に入れて、国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターラボに送付する。なお、ランセットは、1回のみ使用できる器具で試し打ちは出来ないようになっている。針は、穿刺後自動的に格納される。受検者は検査キットに同封された検査キット固有の研究IDと仮パスワード(研究参加者自身が何度でも変更が可能である)が記載されたカードを保管する。

検査キットを持ち帰ったものの、研究参加を取りやめ、検査キットが不要になった場合は、各自が居住する自治体のルールに従って廃棄する。廃棄の方法が不明である場合は、国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターラボに送付しても構わない。

検査の受付とHIVスクリーニング検査の実施

ACCラボにて検体を受領後、検査担当者は、検査受付(ID登録)を行い、スクリーニング検査を実施する。スクリーニング検査で陽性となった検体は、国立国際医療研究センター中央検査部にて二次検査を実施し、HIV感染の有無を判定する。結果を検査システムに入力する。

検査結果の通知

研究参加者は、研究ホームページの検査結果照会画面より、検査カードに記載されたキ

ット固有の研究 ID、パスワードを入力してログインし、検査結果を閲覧する。

検体がラボに到着していない場合は「未到着」、結果が出ていない場合は、「検査中」と表示する。スクリーニング検査陰性の場合には「陰性」、判定保留または陽性の場合には「確認検査が必要です」と表示する。検体量が不足するなど検査ができなかった場合は、「判定不能」と表示する。

検査結果照会画面には陰性または要確認検査の意味、結果の解釈を表示する。また、HIV 検査に関する疑問や不安が生じた際の相談窓口を明示する。

確認検査の実施(研究結果の取り扱いと医療の提供)

HIV スクリーニング検査陽性または判定保留となった研究参加者に対しては、「確認検査が必要です」という結果表示に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を同研究ウェブサイト上で明示する。受診希望の医療機関を選択後、受診希望日、時間を選択する。また、同サイトから当該医療機関宛の情報提供書を発行する。

確認検査が必要となった者は、選択した日時に予約医療機関を受診する。他の医療機関または保健所での確認検査を希望する者に対しても、関係機関宛の情報提供書を発行し、受診の際には、情報提供書を持参するよう促す。

スクリーニング検査陽性または判定保留者に対する診療は一般診療であり、通常の医療機関受診と同じく、有料、実名診療となる。確認検査にて陽性が確定した場合には、各医療機関で告知を行い、必要に応じて専門医療機関を紹介する。感染症法に基づく発生届の作成と提出は、確認検査実施施設にて行う。

支援情報の提供

研究ホームページには、検査・相談・医療に関する情報サイトをリンクし、支援環境の周知に留意する。本研究の実施に関する相談窓口、検査や検査結果受領後の不安に関する相談窓口を明記する。

本研究で用いる検査

HIV スクリーニング検査キットの内容：
検査説明書、検査カード(ID/パスワード控え、支援情報等)、返信用封筒、穿刺血採取キット(ランセット、消毒綿、絆創膏、ろ紙)

HIV 検査の流れと判定基準

HIV 検査手順は、米国 CDC が推奨する HIV 検査手順 (2014 年 6 月 27 日改訂)4) に準じ、第四世代の HIV-1/2 スクリーニングを行い、その後、別の検査試薬を用いて HIV 感染の有無を判定する。

- ①ろ紙にしみこんだ乾燥血液をパンチで打ち抜き、リン酸バッファー液(PBS) 600 μ L にて溶出。
- ②この溶出液 200 μ L を検体として富士レビオ社のルミパルスOR HIV Ag/Ab キット(第 4 世代キット)を用いて HIV-1 および HIV-2 のスクリーニング検査を行う。
- ③陰性の場合には、この段階で陰性の判定。
- ④陽性の場合には、国立国際医療研究センター中央検査部にてシスメック社のヒスクル HIVAg/Ab(第 4 世代検査キット)を用いて二次検査を行い、最終判定する。判定保留例と陽性例は、研究ホームページ上で「確認検査が必要です」と表示する。
- ⑤検体量が不十分、もしくは何らかの理由で検査が出来なかった場合には、もう一度自己穿刺血の再送を促す。

HIV スクリーニング検査の結果表示に対する説明

①陰性:今回の検査では HIV 感染は認められませんでした。HIV 陰性と判定いたします。なお、今後も年 2 回の検査をお勧めいたします。

②確認検査が必要です:より精密な検査(確認検査)が必要です。下記提携医療機関では、精密検査(確認検査)を実施しています。いずれかの医療機関を選択し、確認検査予約画面に進んで下さい。医療機関を受診する際には、予約確定後に表示される情報提供書を印刷して持参して下さい。当日は保険証をご持参ください。他の医療機関または保健所での検査をご希望の場合も、情報提供書を印刷して持参することをお勧めします。

③判定不能:今回送っていただいた血液では、量が不十分、もしくは何らかの理由で検査ができませんでした。再度検査キットを受け取り、検査していただきますようお願いいたします。

倫理面への配慮

本研究については、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会により実施の承認を得ている(2017年12月12日承認、ID番号17017-3)。あわせて、国立研究開発法人国立国際医療研究センター倫理委員会により実施の承認を得ている(2018年2月9日承認、承認番号NCGM-G-002463-00)。

また本研究計画は対象者リクルート前に UMIN に登録し、公開を行っている(UMIN 試験 ID:UMIN000031460、受付番号:R000035885、試験名:MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究「自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施」)。

①検査キットを受け取りに来場した者(研究参加希望者)に対して、十分な訓練を受けたコミュニティセンターのスタッフが、説明同意文書の内容に沿って本研究の説明を行う。検査結果と自記式質問紙の回答内容との連結については、研究参加者の任意とし、拒否する場合も本研究の検査の参加を妨げない。研究参加希望者は、自由意思に基づき研究参加の意思を決定する。説明同意文書末尾に設けられた同意欄にチェックが入った場合、研究参加の同意が得られたものとする。本研究は匿名で実施することから、署名は不要とする。説明同意文書の原本は名古屋市立大学が保管し、控えを研究参加者に手渡す。

日本語は読めないが、英語で理解が可能な外国籍の MSM に対しては、英語の説明同意文書を用いて、研究参加者の求めに応じて英語で口頭にて説明し、研究参加の意思を確認する。そのため、検査キット配布会場に英語が話せるスタッフを配置する。検査キットの使い方説明書は日本語と英語で準備し、結果参照画面は日本語と英語の併記でホームページを作成する。

②プライバシーの保護と研究参加者の識別

研究参加の同意から検査キットの配布、検査結果の通知まですべて匿名で実施する。そのため、対応表は存在しない。検査結果は検査キットに付された研究 ID で管理され、受検者は研究 ID とパスワードで結果の閲覧を行う。

研究参加者に対する自記式質問紙調査では、性的指向や年齢、居住地域を収集するが、名前や住所、連絡先など個人を特定できる情報は収集しない。研究で収集したデータはすべて研究 ID で管理する。研究で収集したデータを取扱うのは本研究に参加する研究者のみとし、本研究以外の目的には使用しない。研究者は、データの取扱いに十分注意

し、研究代表者および研究協力者は適切な取扱いがなされるよう必要な対応を行う。

なお、本研究のホームページにアクセスした人の IP アドレスは研究終了後適切に削除する。

③収集データおよび試料の保管と廃棄

本研究の参加同意書および自記式質問紙の原本、本研究で収集したデータは、研究終了の報告後少なくとも5年間は名古屋市立大学看護学部で保管する。廃棄する場合は、印刷資料、電子媒体データなど、いずれの資料も物理的に内容の読み取りが不可能な状態にした後で廃棄する。書き換え不可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に破壊した上で適切に廃棄する。書き換え可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に電子媒体を破壊して廃棄するか、ダミーデータを複数回上書きして、元のデータを復元不可能な状態にする。

研究参加者から受領したろ紙の残血液は、研究終了の報告後少なくとも5年間は国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターラボにて保管する。保管期限を過ぎたろ紙を廃棄する場合は、通常の血液検体と同様の方法で廃棄する。溶出液は検査後感染性廃棄物として廃棄する。検体を本研究以外の目的に使用することはない。

④研究参加者からの相談等への対応

本研究に係る問い合わせ先および研究代表者の情報を研究ホームページ、説明同意文書、検査キットに明記し、研究参加者などからの相談に対応する。

C. 研究結果

1. 検査キットの配布および相談支援

平成30年2月26日より、毎週月曜日の19-22時まで、コミュニティセンターaktaの場で検査キットの配布を行った。配布時に、ふれいす東京の専門相談員が同時間、コミュニ

ティセンターaktaに控えている。相談を希望する研究参加者には相談員を紹介し、相談支援を行っている。

コミュニティセンターaktaでの通常の配布は、平成31年4月1日から令和2年12月23日までに、39回実施した。検査キットの配布数は948個で、相談は235件だった。なお今年度実施した、クラブイベントでの配布1回、コミュニティセンターmabuiでの配布1回の合計は、検査キットの配布数が49個、相談が21件だった。そのため、今年度の総計は検査キットの配布数が997個、相談が249件だった。研究開始からの総数は配布数が2087件、相談数が490件となった。

2. スクリーニング検査の検体受付と検査の実施

HIVcheck.jpでは、研究参加者が自宅等で採血をし、検査キットの中にある返送用封筒を使用して、国立国際医療研究センターACCのラボに郵送を行う。ラボに届いた検体は順次検査を実施し、平均で到着後2~3日の間には、研究参加者に検査結果を戻している。

平成31年4月から令和2年3月末までの総数での検体の回収数は909個であり、研究開始より1756検体を回収した。そのため、検査キットの回収割合は84.1%となった。なお、コミュニティセンターakta以外での配布基点について紙幅の関係上、今年度は分けての報告は行わないが、ろ紙にマークを付すなどして区別が可能となるようにしている。

今年度のスクリーニング陽性の件数は25件であり、前年度と合わせると合計45件となった。暫定陽性割合は2.56%だった(ただし、すでにこの研究期間にHIVcheck.jp自体を定期的に利用している研究参加者が含まれるため、陽性割合の検討には更なるデータ分析が必要とされる)。今年度回収した検体のうち、検査を実施できなかったものは1件だった。

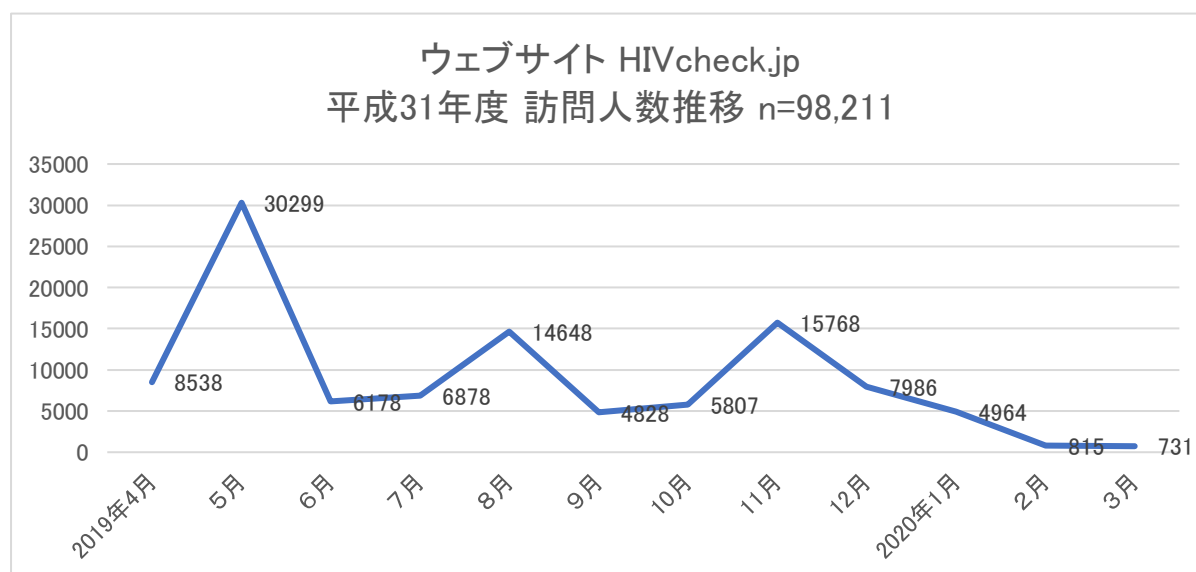
ろ紙に着けられた血液量が極度に足りないもの、また返送時に消毒綿とろ紙を一緒に回収用の袋に入れてしまい、血液がろ紙に拡散してしまっただけのものがあった。

3. 研究ホームページ「HIVcheck.jp」の運営と ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした 広報・啓発

HIVcheck.jpの広報・啓発はコミュニティセンターaktaの啓発機能を活用し、新宿二丁目や首都圏にあるゲイ向け商業施設へ啓発資材の配布を行ったり、ゲイ・バイセクシュアル男性の間で特に活用されているGPS機能付き出会い系アプリ、ウェブサイト、また全国紙であるゲイ雑誌と連携して広報を実施した。HIVcheck.jpの大規模キャンペーンは、今年度、令和元年5月と8月、11月に実施した。それぞれキャンペーンテーマを設定し、「はじめてでもひさしぶりでも」、「令和の夏、新宿二丁目」、「HIVcheckは12月23日(月)ファイナル!」とした。5月に実施したキャンペーンテーマでは、HIVcheckの受検者アンケートの分析から、陽性になる人たちの傾向として生涯初受検のみではなく、既受検の者でも前回の受検から期間が空いている者が多い傾向から、こうしたメッセージを展開した。

平成31年度のウェブサイト「HIVcheck.jp」のユーザー数について、98,211人となった。なお分析には、google analyticsを用いた。キャンペーンを実施した5月、8月、11月には、顕著にアクセス数が伸びている。また、使用しているデバイスは、スマートフォンが93.5%、PCが4.1%、タブレットが2.4%と、スマートフォンに注力した啓発、ウェブ施策が必要ことがわかった。ユーザーがアクセスする際の地域でみると、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県で59.2%だった。一方で、大阪府(16.3%)、愛知県(4.6%)からのアクセスもみられた。

HIVcheck.jpのコンテンツでは、「よくある質問集」が最も多くみられており、「検査キットをすぐに受け取りたい」、「サポート情報」がそれに続いた。今年度はウェブ上での支援情報の追加を図った。スクリーニング陽性という結果を受け取り、HIV感染症の初診までの流れを伝える、ウェブムービーの公開をした。また、増える外国語話者の利用者を念頭に、日本語と英語を用いて、コミュニティセンターaktaにどのように検査キットを取りに行き、どんな流れで検査キットを渡され、採血に至るかを説明したウェブムービーも作成した。



4. 自記式質問紙調査の実施 (資料 2)

HIVcheck.jp では、検査キット配布時に研究参加同意書とともに 5 分間程度のアンケートの記入を研究参加者に依頼している。また、同意書にて同意した参加者にのみ、検査の ID が掲載しているバーコードシールを質問紙に貼り、血清疫学調査を実施している。本報告での分析対象者は、研究開始(2018年2月)から2020年3月末日までに検査キットを受け取った者に限定した(なお複数回利用者は初回データに限定して分析を行っている)。分析対象となった回答者数は、1,176 件であった。20 歳代が 500 件(42.5%)、30 歳代が 390 件(33.2%)、40 歳以上が 286 件(24.3%)だった。以下では検査経験別にみていく。

検査キットを受け取ってから検査ラボに検体を送付は 1756 件で、82%がラボに検体を送付していた。国籍については、全体で 116 件(9.8%)が日本国籍以外の者だった。居住地は、全体で東京都が 813 件(69.1%)、神奈川県が 132 件(11.2%)、埼玉県が 101 件(8.6%)、千葉県が 64 件(5.4%)だった。

コミュニティセンターakta の認知については、全体で「来たことがある」が 394 件(33.5%)、「知っていたが、来たことがなかった」が 464 件(39.5%)、「今まで知らなかった」が 318 件(27.0%)だった。「今まで知らなかった」について受検経験別にみると、生涯受検経験ありが 21.5%、受検経験なしが 43.8%だった。

HIVcheck を受けるきっかけ(複数回答)は、全体で「定期検査として」が 68.5%と最も多く、「リスク行為があった」28.7%、「友人知人の勧め」14.1%、「新しいパートナーができた」13.2%と続いた。受検経験別にみると、「友人知人の勧め」は、生涯受検経験ありが 11.0%、受検経験なしが 23.6%だった。「体調不良があった」は、生涯受検経験ありが 2.8%、受検経験なしが 6.2%だった。

保健所や検査所、クリニックなど既存の検査施設ではなく、HIVcheck を選んだ理由(複数回答)は、「自分の都合の良い時に受けられる」が 77.0%と最も多く、「検査場所に行かなくてよい」が 49.1%、「ゲイに理解のある相談員がいる」が 18.5%、「信用できそう」が 17.9%、「コミュニティセンターakta でやっている検査だから」が 15.1%、「人と会う回数が少ない」が 14.4%、「akta でやっている検査だから」が 13.8%と続いた。受検経験別にみると、「場所を選ばない」が生涯受検経験ありが 52.4%、受検経験なしが 39.4%だった。「自分の都合の良い時に受けられる」は生涯受検経験ありが 79.5%、受検経験なしが 69.5%だった。一方で、「検査や HIV について相談できる」は生涯受検経験ありが 5.2%、受検経験なしが 9.2%だった。「信頼できそう」は生涯受検経験ありが 16.4%、受検経験なしが 22.6%だった。

一番最近 HIV 検査を受けた場所では、「保健所・保健センター」が 45.6%と最も多く、「病院・診療所・クリニック」が 19.4%、「南新宿検査・相談室」が 13.1%、「HIVcheck.jp」が 11.0%と続いた。なお、市販の郵送検査については 4.8%だった。

5. 沖縄地域での HIVcheck の試行

コミュニティセンターakta 以外のコミュニティセンターにて、HIVcheck.jp を実施できるかのフィージビリティを測る試行を、令和 2 年 1 月 10 日(金)に沖縄県那覇市にあるコミュニティセンターmabui で実施した。

実施にあたり、琉球大学医学部および nankr 沖縄/コミュニティセンターmabui と検討を重ね、沖縄地域に合った形式での実施計画を練った。なお沖縄地域でスクリーニング陽性という結果を受け取った場合は、琉球大学医学部附属病院が確認検査の受け入れ機関となった。

前年度の試行をふまえ、ゲイバーなどコミュ

ニティに人の集まりやすい金曜日の夜に時間を設定し、時間の設定を深夜まで広げて展開した。事前の検査の予約制も導入した。また、検査広報のビジュアルについて、mabui のメンバーが主体的に企画・デザインを行った。

同日 1 月 10 日にはコミュニティセンター mabui にて、沖縄県における保健所等 HIV 検査従事者を対象とした研修会を共催し、その場で HIVcheck.jp について報告を行っている。

コミュニティセンター mabui での検査キット配布は、2020 年 1 月 10 日(金)の 19 時~24 時に実施した。検査キットの受け取りは 33 名、相談利用は 14 名だった。20 歳~50 歳代の幅広い層が受け取った。

6. コミュニティセンター以外での HIVcheck の試行

コミュニティセンター akta には HIV 検査を受け取りに来られない人、また、たまたまそのベニューにいた人で HIV 検査受検を希望する人を対象に配布をできる場所の検討と試行を実施した。

前年度に実施したハッテン場での展開をふまえ、別の店舗のオーナーとの協議を進めた。オーナーからはスポット的に配布スタッフが来て配布するよりも、恒常的にハッテン場で手に入れられるサービスとしての検査の構想を求められた。そのため、今年度は他のベニューを企画することとした。

なお、ハッテン場での恒常的な検査機会の提供については、2019 年 9 月に、英国ブライトンで行われている、自動販売機を用いた検査キット配布の取り組みの視察と意見交換を行い、日本での試行について計画を行った。

今年度は、ゲイ向けクラブイベントでの検査キットの配布を実施した。2019 年 10 月 13 日(日)に計画をしていたが、台風 19 号の影響でイベント自体がキャンセルとなった。翌日に当該のクラブイベントのオーガナイザーの好意

により、別イベントでの検査キットを配布した。検査キットの受け取りは 16 名だった。

D. 考察

我が国の MSM において、エイズ施策の指標であるケア・カスケードの第一段階である、HIV に感染している者の 90%が感染ステータスを知る状況には達していない。また、MSM に対して HIV 検査の定期的な受検勧奨が、現場レベルで地道な実践がなされているものの、他国のように政策的に根拠をもったかたちで行われていない。更なる検査の促進が必要とされる。

本研究では、保健所等公的機関など、既存の施設での HIV 検査以外の検査手法、すなわちコミュニティベースの Dried Blood Spots (DBS) 法を用いた HIV 検査を提供する。さらに、コミュニティセンターを基点とした検査キットの配布が、地域に居住する MSM の受検促進に有効な手法になり得るかを明らかにしている。また、検査キットを用いた検査であることから持つ、HIVcheck のモビリティの高さを活かし、akta 以外の地域、特に地方のコミュニティセンターや、セックスの現場に近いハッテン場、またクラブイベント等の MSM の利用するベニューでの検査機会の提供を試行することができる。

そして、本研究では検査キットを配布した地域・ベニューにより、MSM の HIV 有病割合が異なるのかを評価することができる。さらに、検査キット配布時に行う、自記式質問紙調査の回答内容と、感染ステータスをリンクさせた、血清疫学調査を実施することにより、配布地域、ベニューによる MSM の検査行動やリスク行動に違いがあるのかだけでなく、HIV スクリーニング陽性 MSM の検査行動、リスク行動の特性を検討し、明らかにすることができる。

E. 結論

平成 30 年 2 月 26 日より、毎週月曜日の 19

- 22時まで、コミュニティセンターakta の場で検査キットの配布を行い、平成30年2月26日から令和2年12月23日までに、97回実施した(沖縄mabuiが2回、ハッテン場が2回、クラブイベントが1回)。検査キットの配布数は2087個で、相談は490件だった。

検査ラボにおける、平成30年2月から令和2年3月末までの総数での検体の回収数は1756個であり、今年度の検査キットの回収割合は84.1%となった。また同期間のスクリーニング陽性の件数は45件であり、暫定陽性割合は2.56%だった。

HIVcheck.jpの広報・啓発はコミュニティセンターaktaの啓発機能を活用し、新宿二丁目や首都圏にあるゲイ向け商業施設へ啓発資材の配布を行ったり、ゲイ・バイセクシュアル男性の間で特に活用されているGPS機能付き出会い系アプリ、ウェブサイト、また全国紙であるゲイ雑誌と連携して広報を実施した。HIVcheck.jpの大規模キャンペーンは令和元年5月、7月、11月に実施した。それぞれキャンペーンテーマを設定し、「はじめてでもひさしぶりでも」、「令和の夏、新宿二丁目」、「HIVcheckは12月23日(月)ファイナル!」とした。

平成31年度のウェブサイト「HIVcheck.jp」のユーザー数について、98,211人となった。キャンペーンを実施した5月と7月、11月には、顕著にアクセス数が伸びていた。ユーザーがアクセスする際の地域で見ると、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県で60%程度だった。HIVcheck.jpのコンテンツでは、「よくある質問集」が最も多くみられており、「サポート情報」がそれに続いた。

今年度は、ウェブ上での支援情報の追加を図った。スクリーニング陽性という結果を受け取り、HIV感染症の初診までの流れを伝える、ウェブムービーの公開をした。また、増える外国語話者の利用者を念頭に、日本語と英語を用い

て、コミュニティセンターaktaにどのように検査キットを取りに行き、どんな流れで検査キットを渡され、採血に至るかを説明したウェブムービーの企画、撮影を実施した。

検査キット配布時に研究参加同意書とともに5分間程度のアンケートの記入を研究参加者に依頼しており、同意書にて同意した参加者にのみ、検査のIDが掲載しているバーコードシールを質問紙に貼り、血清疫学調査を実施した。本報告での分析対象者は、1,176件であった。20歳代が500件(42.5%)、30歳代が390件(33.2%)、40歳以上が286件(24.3%)だった。国籍については、全体で116件(9.8%)が日本国籍以外の者だった。今後更なる分析を進めていく。

今年度は、沖縄県にあるコミュニティセンターmabuiにて、地域の医療機関、行政、そしてNGOやコミュニティと連携して配布会を実施した。またハッテン場でのHIVcheckを検討し、クラブイベントでの配布を1回実施した。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 岩橋恒太:公衆衛生上の脅威としてのエイズの終結を、本気で目指す—新宿二丁目のコミュニティセンターaktaの立場から、公衆衛生, 2020, 84(2)
- 2) 岩橋恒太: HIV 予防における PrEP とは何か—日本のコミュニティへの導入の課題について考える。日本 HIV 陽性者ネットワーク ジャンププラスニュースレター, 2020, 3月号

2. 学会発表 (国内)

- 1) ○岩橋恒太: NGO の視点からみた新しい確認検査法への期待 ~コミュニティセンターaktaでのHIVcheck.jpの経験から。シンポジウム2、第33回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 2) 本間隆之、岩橋恒太、生島 嗣、貞升健志、長島真美、市川誠一、今村顕史：MSM に向けた HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅」3 年間の取り組み. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴：コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニユーの拡大の試行. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) ○林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、湯永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一：乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 佐野貴子、近藤真規子、土屋菜歩、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、清水茂徳、生島嗣、岩橋恒太、今井光信、加藤眞吾、市川誠一、白阪琢磨、今村顕史：ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談情報の提供とサイト利用状況の解析. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史：MSM を対象とする、2018 年の A 型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査. 第 33 回日本エイズ

学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 8) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平：MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

3. 学会発表 (国外)

- 1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing ‘HIVcheck.jp’ is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
- 2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme “Delivery Health Project” as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

資料 1

平成 31 年度 HIVcheck. jp 研究行程表

※毎週月曜日 19～22 時、community center akta での検査キットの配布を継続

4 月

東京レインボープライドパレードでの HIVcheck の広報の実施

5 月

HIVcheck 認知向上キャンペーン④実施

YouTube「HIV 診療を受けるまで

HIVcheck シミュレーション・ムービー」

公開

6 月

ハッテン場オーナーとの意見交換開始

7 月

クラブイベントオーガナイザーとのミーティング開始

HIVcheck 認知向上キャンペーン⑤実施

8 月

新宿二丁目祭りでの HIVcheck の広報の実施

9 月

Fast Track Cities in London での口演
英国で行われている、自販機での HIV 検査キットのアウトリーチの見学

南新宿検査相談室 協力施設として参加開始

10 月

クラブイベントでの HIVcheck 台風 19 号の影響で中止。翌日、小規模に配布。

ガイダンスに iPad 活用を導入

11 月

YouTube「【Guide of getting HIV testing kit】HIV check シミュレーション・ムービー MR GAY JAPAN Shogo さんが解説！」公開

日本エイズ学会口演

HIVcheck 認知向上キャンペーン⑥実施

12 月

akta での HIVcheck キット配布終了

(12/23)

1 月

平成 31 年度 沖縄県における保健所の HIV 検査従事者等関係者のためのエイズ専門研修会共催(コミュニティセンター mabui)

HIVcheck. jp in 沖縄(コミュニティセンター mabui)

ACC での検体受付、1 月末日で終了

2 月

研究班班会議

3 月

ウェブサイト HIVcheck. jp、3 月末日で閉鎖

資料2 受検者アンケート集計（1）

検体送付者のHIV検査の経験別の対象者の属性（複数回利用者は初回データのみを使用）									
		ない N=292		ある N=884		全体 N=1176		有意差	
Q1_年齢									
20歳代		181	62.0%	319	36.1%	500	42.5%	0.000	
30歳代		62	21.2%	328	37.1%	390	33.2%		
40歳以降		49	16.8%	237	26.8%	286	24.3%		
Q2_あなたはどれにあてはまりますか？									
ゲイ		205	70.2%	764	86.6%	969	82.5%	0.000	
バイセクシュアル		79	27.1%	115	13.0%	194	16.5%		
その他		8	2.7%	2	0.2%	10	0.9%		
Q3_あなたの国籍は？									
日本		259	88.7%	801	90.6%	1060	90.1%	0.356	
その他		33	11.3%	83	9.4%	116	9.9%		
Q4_あなたのお住まいは？									
東京都		176	60.3%	637	72.1%	813	69.1%	0.004	
神奈川県		43	14.7%	89	10.1%	132	11.2%		
埼玉県		32	11.0%	69	7.8%	101	8.6%		
千葉県		23	7.9%	41	4.6%	64	5.4%		
その他		18	6.2%	48	5.4%	66	5.6%		
Q5_あなたの現在の職業でもっとも近いのは？									
正規雇用		168	57.5%	613	69.4%	781	66.5%	0.000	
非正規雇用（パート・アルバイト・		43	14.7%	101	11.4%	144	12.3%		
自由業・自営業・経営		16	5.5%	89	10.1%	105	8.9%		
学生		56	19.2%	64	7.2%	120	10.2%		
働いていない		6	2.1%	11	1.2%	17	1.4%		
その他		3	1.0%	5	0.6%	8	0.7%		
Q6_過去6か月間に、次のゲイタウンを利用しましたか？									
いずれもない		76	26.0%	173	19.6%	249	21.2%	0.021	
新宿二丁目		189	64.7%	657	74.3%	846	71.9%	0.002	
上野浅草		43	14.7%	172	19.5%	215	18.3%	0.080	
渋谷		24	8.2%	58	6.6%	82	7.0%	0.354	
新橋		32	11.0%	176	19.9%	208	17.7%	0.001	
横浜		12	4.1%	36	4.1%	48	4.1%	1.000	
その他		14	4.8%	36	4.1%	50	4.3%	0.616	
Q7_過去6か月の間に、日本で利用した商業施設は？									
どれも利用していない		28	9.6%	45	5.1%	73	6.2%	0.008	
ゲイバー		147	50.3%	580	65.6%	727	61.8%	0.000	
クラブ		58	19.9%	264	29.9%	322	27.4%	0.001	
有料ハッテン場		122	41.8%	434	49.1%	556	47.3%	0.031	
野外ハッテン場		9	3.1%	52	5.9%	61	5.2%	0.068	
出会い系ウェブ		34	11.6%	164	18.6%	198	16.8%	0.007	
出会い系スマホアプリ		187	64.0%	590	66.7%	777	66.1%	0.433	

受検者アンケート集計 (2)

	ない N=292	ある N=884	全体 N=1176	有意差
Q8_今回を除き、あなたはこれまで「コミュニティセンターakta」に来たことがありますか?				
来たことがある	42 14.4%	352 39.8%	394 33.5%	0.000
aktaを知っていたが、来たことがな	122 41.8%	342 38.7%	464 39.5%	
今まで知らなかった	128 43.8%	190 21.5%	318 27.0%	
Q9_今回を除き、2018年2月以降、「HIVcheck.jp」を利用したことがありますか?				
今回が初めて	292 100.0%	863 98.0%	1155 98.4%	0.000
受け取ったが、郵送せず	0 0.0%	18 2.0%	18 1.5%	
Q10_「HIVcheck.jp」をどこで知りましたか?				
ゲイバー	24 8.2%	83 9.4%	107 9.1%	0.561
有料ハッテン場	8 2.7%	27 3.1%	35 3.0%	0.846
akta	32 11.0%	102 11.5%	134 11.4%	0.832
出会い系スマホアプリ	132 45.2%	446 50.5%	578 49.1%	0.121
知り合い	55 18.8%	167 18.9%	222 18.9%	1.000
Facebook/twitter	62 21.2%	148 16.7%	210 17.9%	0.094
その他	24 8.2%	68 7.7%	92 7.8%	0.802
Q11_今回、HIVcheckを受けるきっかけは何ですか?				
定期検査として	146 50.0%	660 74.7%	806 68.5%	0.000
新しいパートナーができた	47 16.1%	108 12.2%	155 13.2%	0.091
リスク行為があった	91 31.2%	247 27.9%	338 28.7%	0.297
STIにり患した	4 1.4%	8 0.9%	12 1.0%	0.506
体調不良があった	18 6.2%	25 2.8%	43 3.7%	0.012
HIV陽性者と性交渉をした	1 0.3%	21 2.4%	22 1.9%	0.042
友達知人の勧め	69 23.6%	97 11.0%	166 14.1%	0.000
周囲の人の感染が判明した	9 3.1%	24 2.7%	33 2.8%	0.838
Q12_今回、保健所や検査所、クリニックではなく「HIVcheck.jp」を選んだ理由は?				
自分の都合の良い時に受けれる	203 69.5%	703 79.5%	906 77.0%	0.001
場所を選ばない	115 39.4%	463 52.4%	578 49.1%	0.000
人と会う回数が少ない	51 17.5%	118 13.3%	169 14.4%	0.084
検査やHIVについて相談できる	27 9.2%	46 5.2%	73 6.2%	0.017
ゲイに理解のある相談員がいる	59 20.2%	158 17.9%	217 18.5%	0.385
陽性の時相談できる場所が明確	19 6.5%	53 6.0%	72 6.1%	0.778
信用できそう	66 22.6%	145 16.4%	211 17.9%	0.018
aktaでやっている検査だから	28 9.6%	134 15.2%	162 13.8%	0.018
陽性の時かかる医療機関が明確	14 4.8%	39 4.4%	53 4.5%	0.871
友達や知人の勧め	51 17.5%	114 12.9%	165 14.0%	0.053
Q13_自分のセクシュアリティについて、カミングアウトした人は何人くらいいますか?				
いない	83 28.6%	206 23.3%	289 24.6%	0.003
1人	34 11.7%	69 7.8%	103 8.8%	
2～5人	88 30.3%	263 29.8%	351 29.9%	
6人以上	84 29.0%	345 39.1%	429 36.6%	

受検者アンケート集計 (3)

	ない N=292		ある N=884		全体 N=1176		有意差
Q14_ これまでに男性とセックスをしたことがありますか?							
ない	8	2.7%	7	0.8%	15	1.3%	0.016
ある	284	97.3%	877	99.2%	1161	98.7%	
Q15_ 過去6か月間に男性とアナルセックスをしましたか?							
しなかった	55	18.8%	98	11.1%	153	13.0%	0.000
した	234	80.1%	783	88.8%	1017	86.6%	
Q16_ 過去6か月間に男性とのアナルセックスでコンドームをどのくらい使いましたか?							
過去6か月アナルセックスはしなかった	2	0.9%	7	0.9%	9	0.9%	0.450
コンドームを必ず使った	88	37.4%	270	34.1%	358	34.9%	
使うことが多かった	102	43.4%	325	41.1%	427	41.6%	
使わないことが多かった	28	11.9%	133	16.8%	161	15.7%	
使わなかった	15	6.4%	56	7.1%	71	6.9%	
Q17_ 過去6か月間のセックスでの併用品							
いずれも使用無し	195	80.2%	607	75.1%	802	76.3%	0.103
ぼっき薬 (バイアグラなど)	33	13.6%	157	19.4%	190	18.1%	0.046
ラッシュ	7	2.9%	24	3.0%	31	2.9%	1.000
5MEO-DIPT (ゴメオ、フォクシー)	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%	1.000
スピード・エクスタシー (MDMA)	1	0.4%	2	0.2%	3	0.3%	1.000
上記以外のセックスドラッグ (合ドラ)	1	0.4%	1	0.1%	2	0.2%	0.409
静脈注射のドラッグ	3	1.2%	3	0.4%	6	0.6%	0.140
マリファナ・コカイン	1	0.4%	3	0.4%	4	0.4%	1.000
Q18_ 過去6か月間に、相手からお金をもらって セックスをしたことがありますか?							
ない	265	95.0%	854	97.7%	1119	97.1%	0.025
ある	14	5.0%	20	2.3%	34	2.9%	
Q19_ これまでにHIV検査を受けたいと思ったことがありますか?							
ない	36	12.5%	6	0.7%	42	3.6%	0.000
ある	252	87.5%	868	99.3%	1120	96.4%	
Q22_ 一番最近に受けたHIV検査の種類 (場所) はどれですか? (検査経験者のみ)							
保健所・保健センター	2	11.8%	399	45.2%	401	44.6%	0.000
病院、診療所、クリニック	0	0.0%	175	19.8%	175	19.4%	
手術前・入院時の検査	1	5.9%	10	1.1%	11	1.2%	
南新宿検査・相談室	0	0.0%	118	13.4%	118	13.1%	
HIVcheck.jp	9	52.9%	90	10.2%	99	11.0%	
郵送検査	0	0.0%	43	4.9%	43	4.8%	
イベントHIV検査会	0	0.0%	20	2.3%	20	2.2%	
その他	5	29.4%	28	3.2%	33	3.7%	
Q23_ 一番最近に受けたHIV検査の結果は知っていますか?							
結果を聞いた	6	60.0%	877	99.4%	883	99.0%	0.000
結果を聞かなかった	4	40.0%	5	0.6%	9	1.0%	

受検者アンケート集計 (4)

	ない N=292		ある N=884		全体 N=1176		有意差
Q24_あなたはHIV検査を定期的に受けていますか?							
6か月またはそれより短いペースで受	0	0.0%	174	19.7%	174	17.3%	0.000
おおよそ1年に一度のペースで受けてい	4	3.3%	232	26.2%	236	23.5%	
特にペースは決めていない	118	96.7%	478	54.1%	596	59.2%	
Q25_これまでに次の性感染症にかかったことがありますか?							
どれもなし	242	83.2%	601	68.1%	843	71.8%	0.000
梅毒	5	1.7%	91	10.3%	96	8.2%	0.000
A型肝炎	2	0.7%	14	1.6%	16	1.4%	0.383
B型肝炎	3	1.0%	54	6.1%	57	4.9%	0.000
C型肝炎	1	0.3%	4	0.5%	5	0.4%	1.000
淋病	8	2.7%	74	8.4%	82	7.0%	0.001
クラミジア	12	4.1%	107	12.1%	119	10.1%	0.000
HIV感染症	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%	1.000
その他	11	3.8%	31	3.5%	42	3.6%	0.856
Q26_過去1年間に次の性感染症にかかったことがありますか?							
どれもなし	263	90.7%	811	91.8%	1074	91.6%	0.544
梅毒	2	0.7%	19	2.2%	21	1.8%	0.128
A型肝炎	1	0.3%	6	0.7%	7	0.6%	0.689
B型肝炎	0	0.0%	5	0.6%	5	0.4%	0.341
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
淋病	3	1.0%	16	1.8%	19	1.6%	0.436
クラミジア	4	1.4%	20	2.3%	24	2.0%	0.476
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
その他	7	2.4%	6	0.7%	13	1.1%	0.022
Q27_自分が今HIV陽性である可能性はどの程度だと考えていますか?							
高いと思う	4	1.4%	10	1.1%	14	1.2%	0.047
五分五分くらいだと思う	25	8.7%	70	7.9%	95	8.1%	
低いと思う	153	52.9%	550	62.2%	703	59.9%	
わからない	107	37.0%	251	28.4%	358	30.5%	
すでにHIV陽性の診断を受けている	0	0.0%	3	0.3%	3	0.3%	